

<教科に関する調査結果(学力調査と生徒質問紙)から>

各教科において、平均正答率が奈良県・全国の平均を上回っている。特に知識・技能の観点に当てはまる問題について、高い正答率であった。基礎・基本となる学力の定着ができていていると考えられる。

【国語】

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のどの観点も正答率が半分以上あり、バランスよく国語の力がついている。特に、「読むこと」の観点がよくできていた。

記述問題の正答率が低く、記述式の問題に課題があることがわかる。これまで、授業プリントで記述式の解答については、個別に添削をすることで、書き方の基礎基本が身につくように取り組み、さらに、書く力を伸ばすことに特化した教材も併用して取り組んできたが、思ったような成果を得たとは言い難い。今後は、まず書く機会をさらに増やし、全体への指導と併せて、個々の解答へのきめ細やかな添削を行ない、助詞の使い方や正しい文の構成の理解のために、言語事項にもさらに力を注ぐべきである。

意欲的な態度は、普段の授業への積極的な取り組み姿勢が影響していると感じる。授業では、挙手・発表の機会や自分の意見をクラス全体で共有・検討する場面をなるべく多く設定している。

授業で使用するプリントにメモ欄を書いたりまとめたりする場として活用し、毎時間提出することを3年間継続したことにより、聞き取ること・書くこと・まとめることの力が飛躍的に伸びたと感じる。2年生からは、「書くこと」「読むこと」に特化した教材を毎時間取り組み、定期考査に出題することによって、定着を図った。その成果が表れたと考察する。語彙力をつけるために、漢字の学習は毎時間行い、小テストも繰り返し実施してきた。また、意味の確認や語句の使い方についても、意識して取り組んできた。それらで培われた基礎力が、「読むこと」や「書くこと」の成果へつながったのではないかと思う。

【数学】

正答率が奈良県・全国に比べて高く、特に「図形」と「データの活用」の分野で全国の正答率と比較してかなり高い正答率である。また、問題が難しくても答えを導きだそうとするなど、無回答率が全体的に低い。

基礎基本を大切に、繰り返し演習をしたことや図形の学習では、できるだけ視覚で学ぶことができるように、現物を見せたり、説明や証明問題等も、根拠になる部分を大切に、筋道を立てて説明することを丁寧に指導してきたことがよかったと思われる。一方で、「関数」の分野が苦手な傾向がみられるので、学習したことが身の回りのさまざまな事象で登場することを伝え、学んだことを活用できる教材に取り組んだり、グループワークの中で考え、交流し合うなど、筋道を立てて説明することが必要とされる場面を作るなど、さまざまな方法でアプローチしていき、理解を深めたい。

【理科】

正答率が奈良県・全国に比べて高く、多くの生徒に基礎的な知識・技能が一定程度身に付いているといえる。実験などの場面では、安全面の指導を丁寧に行っていたこと、生徒の理解度を確認しながら授業を進めてきたこと、授業で学んだ内容（まとめ）については全体で確認を行ってきたこと、基本問題への取り組みを続けてきたことなどの取り組みの結果が表れたと考えられる。

一方で、正答率が低い問題もあり、その中にはいくつかの知識を組み合わせで正解へたどり着く問題も多いので、中学1年生のうちから基本的な知識・技能の習得と合わせて思考力を育む問題を授業の中で取り組むなどの工夫が考えられる。

【生活・行動や考えに関する調査結果から】

「朝食を毎日食べている」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」など、基本的な生活習慣について、できていると答えている割合が高く、比較的基本的な生活習慣が身についている。また、学校の授業時間以外で、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、学習に取り組んでいる割合が高く、学習習慣も身についていると考えられる。学校生活の中でも、時間を守ることや、決まりを守って、規則正しく生活することを意識して行動するよう指導し、家庭とも連絡を密に取り合い、家庭と学校と手を携えていけるよう意識をしている。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で肯定的な答えの割合が高い。生徒の良いところをできるだけたくさん見つけ、直接伝え、三年間の学年としての目標を作り、学年集会を学期の最後にもった際、どれだけ成長したのかを伝えるようにしていることがこの結果につながったと思われる。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という問いに対し肯定的な意見が少なかった。「いじめ」が題材の道徳をしたり、日常生活の中でも、思いやりの心を大切にし、相手の気持ちを考えるようにという指導はしたりしてきたが、どうしても「いじめられる側も悪いのでは」という考えが一定数いるので、今後も引き続き、「いじめは許されない。」という意識をしっかりと育てるように指導し続けたい。また、「読書は好きですか。」という問いに対して肯定的な意見が少なかった。家庭への意識づけも含め、本や新聞に親しむ機会を多くもち、読書が好きになるように学校全体として取り組みをしていきたい。